

単組幹部養成セミナー

日時：10月24日(土)午後から
会場：札幌市内

農協労働者

北海道単組農業協同組合・農業共済組合
労働組合連合会(道農協労連)機関紙
毎月1日発行 1部30円
札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル4階
Tel. 011(232)0676
Fax. 011(232)2355
URL: http://donokyororen.jp
E-mail: mail@donokyororen.jp
発行責任者 九村 信吾

どうなる 日本農業 私たちの暮らし TPP交渉の現状と今後の行方



TPPに参加すれば日本の酪農は壊滅状態に

7月末のTPP閣僚会合に、日本は「TPP妥結の最終局面」と位置づけ臨みましたが、事実上決裂しました。TPP交渉の現局面と今後の展開について、農民運動北海道連合会の野呂光夫書記長にお話を伺いました。

甘利大臣は「某国(ニュージーランド)は頭を冷やすべきだ」と言いましたが、頭を冷やすべきは日本です。ここまで交渉が採れていることを考えたら、TPPには無理があることを認識すべきです。決裂の要因はいくつもありますが、象徴的なのは、医薬品の特許の保護期間での対立です。徹底的な規制緩和と言いつつ、これは規制強化にほかなりません。「人の命と健康、暮らし、環境を犠牲に



農民連・野呂光夫書記長

乳製品は、ニュージーランドとオーストラリアの競争力が突出しており、アメリカ、カナダ、日本は、全面的な関税撤廃をしたら、国内の酪農が崩壊する。これは明らかです。アメリカでも「公益事業」(※電気やガスと同じ)が必要になります。日本も国民の命、健康を守るなら、本来、米国に反対すべきなのですが、日本の製薬企業の利益を守るため妥協点ばかりを追いかけたのです。

一方、今回決裂したとは言え、日本は、自民党が決議したTPPで守るべき国益6項目を、既にアメリカにすべて差し出してしまいました。農産物関税のみならず、軽自動車の増税、自由診療の拡大、食品の安全基準の緩和、ISDS(投資家対国家紛争処理条項)への賛成など、他分野や非関税分野も「自主的に」米国の言いなりに対応し、国民に守ると約束した国益の決議は破綻しています。

「日本はもう国益を勝ち取る余地はない」と? 日米の農産物関税に

7月の閣僚会合で「アメリカ協議会が「TPP交渉の行方はどうなる」と考えますか?」

「今後、どのような運動が必要でしょうか?」

2015年度中央執行委員会よりご挨拶

<p>▽副委員長</p> <p>賀山 高 (十勝共済)</p>	<p>▽書記長</p> <p>九村信吾 (書記局)</p>	<p>▽中央執行委員</p> <p>藤田倫史 (今金町)</p>	<p>「労わる」と書いて「イタワル」①ねぎらう。②大切に。③休養する等の意。労働者は?</p>
<p>副委員長として、全道の仲間と連携し、地道に活動を行ってまいります。</p> <p>浅野孝一 (ようてい)</p>	<p>菊田和馬 (たきかわ)</p>	<p>みなさんの願いに寄り添って頑張っていきたいです。</p> <p>齋藤未来 (鶴川)</p>	<p>労働活動の経験が浅く、わからないことが多いのですが、熱意を持って活動します。</p>
<p>初めまして緊張しますが、一杯努力致します。宜しくお願い致します。</p> <p>大東毅史 (道央)</p>	<p>後藤哲也 (佐呂間町)</p>	<p>まだまだ経験は浅いですが、皆で協力して頑張りたいと思います。</p> <p>伊藤政成 (苫前町)</p>	<p>頑張りしたいと思います。きたいと思います。</p>
<p>色んな地区の人達と意見交換できる良い機会だと思っております。宜しくお願い致します。</p> <p>大野俊明 (猿払村)</p>	<p>今田康博 (宗谷共済)</p>	<p>組合員皆様のお力に少しでもなれるよう頑張りたいと思います。</p> <p>池田直哉 (釧路丹頂)</p>	<p>このような大役は初めてですが、一年間よろしくお祈りします。</p> <p>田中洋人 (札幌)</p>

